

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
4	多摩美術大学	ハイブリッド・アート	久保田 晃弘 情報デザイン学科 教授	2	前期	火	15	10:40～12:10	多摩美術大学 八王子キャンパス	10

【到達目標】

今日のハイブリッドアートの動向を知り、これまで芸術の範疇にとらえられてこなかったさまざまな考え方や方法、ツールや技術が、アートとの「混交」による社会への問題提起によって、新たな表現や意味の創造の可能性を切り開こうとしていることを知る。

【授業のねらい】

「ハイブリッド・アート」とは、人文学から科学技術まで、古代から未来まで、多種多様な領域と芸術的表現との「混交」から生み出されるさまざまな芸術的挑戦の総称である。ゆえにそれは、未だ芸術として確立していないフロンティアとしての実験であり、既存の概念や価値観からは顕在化されない、未知の可能性を追求する試みとも言える。その意味で、ハイブリッド・アートは、伝統的な芸術形式の延長線上ではなく、むしろその概念を刷新し、拡張し続けるものである。この授業では、こうした「ハイブリッド・アート」歴史、事例、実践の数々を紹介し、そのスピリットを共有する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|---------------------|------------------|---------------------------|
| 1. ハイブリッド・アートとは何か | 6. バイオ・アート(1) | 11. 人間外知性 |
| 2. ハイブリッド・アートの起源 | 7. バイオ・アート(2) | 12. 「ニュー」メディア・アートは可能か？(1) |
| 3. コンピュータ・アート | 8. ポスト・ヒューマンと人新世 | 13. 「ニュー」メディア・アートは可能か？(2) |
| 4. 量子(ポスト・ビット)計算と観測 | 9. 他者と辺境 | 14. 「ニュー」メディア・アートは可能か？(3) |
| 5. スペキュラティブ・デザイン | 10. 地球外生命 | 15. 不可知なもののための芸術 |

【参考書、教材等】

「メディアアート原論 — あなたは、いったい何を探し求めているのか?」久保田 晃弘, 畠中 実(著), NTT 出版, 2018.

「遙かなる他者のためのデザイン — 久保田晃弘の思索と実装」久保田 晃弘(著), ビー・エヌ・エヌ新社, 2017.

「バイオアート — バイオテクノロジーは未来を救うのか」ウィリアム・マイヤー(著), 久保田 晃弘(監修), ビー・エヌ・エヌ新社, 2016.

「スペキュラティブ・デザイン 問題解決から、問題提起へ — 未来を思索するためにデザインができること」アンソニー・ダン, フィオーナ・レイビー(著), 久保田 晃弘(監修), ビー・エヌ・エヌ新社, 2015.

【評価方法】

各回の授業の出席(50点)および課題レポートの提出とその内容(50点)により総合的に評価する。

※ この授業は、4/14(火)が初回です。